

令和5年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 120

千葉県立姉崎高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

人物に優れ、意欲的に高校生活を送り、学業に熱心に取り組む意志があり、次のア又はイのいずれかに該当する生徒

ア 中学時代に生徒会活動、学校行事、学習活動等に意欲的に取り組み、入学後も継続してその活動に取り組む意志があること。

イ 中学時代にスポーツ活動、文化活動に意欲的に取り組み、入学後も継続してその活動に取り組む意志があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の2つの検査の結果
① 面接	評価者2名の個人面接 検査時間：2分
② 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 実施形態：個人で発表 検査時間：2分 イ 実技による自己表現 実施形態：個人又はグループで発表 次の実技のうち1つを、出願時に志願者が選択 ソフトテニス（男女）・バスケットボール（男女） 野球（男）・陸上競技（男女）・サッカー（男） バレーボール（女） 検査時間：10分～30分程度（種目により異なる）

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔180点満点〕

アの数値にエについて加点(上限45点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値にK=1を乗じた数値で評価する。 評定1又は未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において欠席が30日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○の数が2つ以下の場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動の実績等、その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については45点を上限として加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査〔150点満点〕

① 面接〔60点満点〕

2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、5段階（10点・7点・5点・3点・1点）で評価し、2名の評価者の評価（各30点満点）を合計する。評価1点が3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望動機・意欲	志望の動機が明確で、高校生活に積極的・意欲的に取り組もうとしている。
イ 質問に対する応答	質問に対して的確に回答することができる。
ウ 身だしなみ・態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身に付いている。

② 自己表現〔90点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、5段階（15点・10点・5点・3点・1点）で評価し、2名の評価者の評価（各45点満点）を合計する。評価1点が3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

ア 口頭による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 発表内容	発表内容が自らの体験に基づいており、説得力がある。
(イ) 表現力	表現力豊かに、わかりやすく発表を行うことができる。
(ウ) 活躍への期待度	高校生活の目標が明確で、活躍が期待できる。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 基礎的技能	当該種目における基礎的技能を身に付けている。
(イ) 専門的技能	当該種目における専門的技能を身に付けている。
(ウ) 活躍への期待度	当該種目における活躍が期待できる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（面接・自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

< 総得点の満点の内訳 >

学力検査 の得点	調査書の得点		学校設定検査の得点		総得点
	評定 (K=1)	加点	面接	自己表現	
500点	135点	45点	60点	90点	830点

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面談を行う。